

ファシリティマネジャーのための リスク対応事例

部会長 **上倉 秀之**

かみくら ひでゆき

FM防災Lab 代表
認定ファシリティマネジャー



2024年の幕開けは能登半島地震や羽田空港での航空機事故など大変な幕開けとなりました。犠牲となられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々が一日も早く穏やかな日常を取り戻せることを祈念申し上げます。

FMフォーラムの発表資料は昨年末の作成のため、この場を借りて本年正月に発生した地震・事故に言及させていただきます。

元旦に発生した令和6年能登半島地震は震度7を記録し、多数の家屋倒壊、津波、土砂災害を引き起こしました。海岸に近い地域には地震発生から数分で津波が到達するなど、「避難」などのソフト面では立地リスクをカバーすることはできないことを私たちに示しています。立地リスクの把握と対策、災害対応器材と備蓄などの再確認が肝要です。

また、航空機事故では旅客機の乗客・乗員全員が避難できたことは客室乗務員の適切な対応と羽田空港消防隊の迅速な消火活動の賜物でした。火だるまになった旅客機は大爆発の危険をはらんでいましたが空港消防隊が迅速に機体周辺の火災を抑え避難の時間を稼ぎました。多数の旅客機と地上作業車両がいるなかで、炎上する旅客機に駆けつけて消火活動を開始したのは、たゆまぬ訓練の成果です。

昨今、コロナ下で中止していた自衛消防隊の訓練を再開する企業・建物が増加しています。羽田の事故と同様に自衛消防隊も平素の訓練をしっかりとっておかなければ「いざ」という時に迅速・適切な対応ができません。

本年のFMフォーラムでは「リスク対応事例」としてさまざまな取り組みを紹介しました。

昨年秋に行ったweb防災セミナーでのアンケート結果からは、災害対応の取り組みは、まだ不十分と思われます。(図表1)

最近では、「耐震・制振・免振」で揺れない施設が増加しています。また非常用発電機の容量増加により、停電時でも照明・空調の一部を稼働させることができる施設も登場しました。災害に耐えるのではなく被災しない建物は、われわれにとって災害対応の有力な選択肢です。一方、能登半島地震は備蓄の重要性を改めて示しました。特にトイレ問題は深刻であり、オフィスでも災害用トイレの備蓄は必須となっています。

また、帰宅困難者対策の備蓄等は浸透しつつあるものの「帰宅抑制解除」の基準やタイミングについては各社模索の状況です。社員への安全配慮等を考慮した対応が求められます。

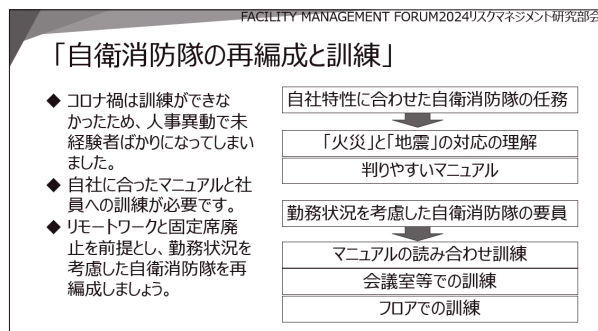
最近では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行とともにさまざまな訓練を再開した企業も多く、災害対策本部訓練や自衛消防隊訓練、社員への災害対応啓発体験などが行われています。能登半島地震の教訓からも「備えていないことには対応できない」ことは明らかですので、自社の備えを見直し、早急に取り組むことが肝要です。自社の組織文化や社員特性に合わせた災害対応マニュアルや掲示の作成や訓練の実施を強く推奨いたします。リスクマネジメント研究部会では災害対応訓練やマニュアル化等の事例研究等も行っていますので、アドバイス等をご希望の場合にはJFMA事務局にお気軽にご連絡ください。◀

FACILITY MANAGEMENT FORUM2024リスクマネジメント研究部会

防災対策において導入（実施）済みの「モノ」

防災対策において導入（実施）済みの「モノ」	回答数	割合
停電時に使用する照明機材（ライト・ランタン等）	95	45.2%
非常用のバッテリー（蓄電池機器）	92	43.8%
非常用のヘルメット	12	5.7%
卓上機器（PC等）の転倒防止、書類の散乱防止対策	40	19.0%
フロア内の書庫・金庫等重量家具備品の転倒防止	69	32.9%
保管庫・倉庫の物品棚の転倒防止・荷崩れ防止	73	34.8%
被災時に使用する汚物・ゴミ等の分別容器（備品）	26	12.4%
アンケート回答総数	210	100

図表1 防災対策において導入（実施）済みの「モノ」



図表2 「自衛消防隊の再編成と訓練」